



松田川ダム	
位 置	足利市松田町原畑地先
有効貯水容量	1,800,000 m ³
(治水) 洪水調節量	700,000 m ³
(利水) 農業・水道用水量	1,100,000 m ³
ダム型式	重力式コンクリートダム
堤頂長	228.0m
堤体積	166,400 m ³

(出展：松田川総合開発事業「松田川ダム」)

目 次

《特 集》

P2 令和4年度 栃木県支部年次大会の報告	県支部幹事 西谷 元則
P3 令和4年度 栃木県支部講演会報告	県支部幹事 谷口 雅昭
P5 令和4年度 栃木県支部新合格者及び懇親会報告	県支部幹事 新井 達雄
P5 新会報のコンセプト	県支部広報委員会
P6 創立10周年記念講演会と記念誌	県支部広報委員長 西谷 元則
P7 まちぴあ勉強会（まちぴあとオフィス団体のコラボ企画）の募集	
P7 広報委員長のよもや話	県支部広報委員会
P8 令和4年度 栃木県支部新組織図	
P9 令和4年度 栃木県支部行事予定	
P10 令和3年度 1月講演会の報告	県支部幹事 金澤 正和
P10 令和3年度 技術士を志す方への情報提供講座の報告	県支部幹事 宮下 治
P11 栃木県支部テーマについて	
P12 協賛団体紹介	
P12 編集後記	県支部広報委員長 西谷 元則

《特 集》

令和 4 年度 年次大会の報告

栃木県支部幹事 西谷 元則

1. はじめに

令和 4 年 6 月 11 日（土）、新型コロナウイルス感染者が減少していることから、日本技術士会栃木県支部の年次大会がニューみくら（宇都宮市）で対面と WEB により開催された。公益社団法人日本技術士会栃木県支部は、発足後 10 年を経過し、今回は栃木県支部としては 11 回目の年次大会となった。

年次大会には来賓 4 名、協賛団体 2 団体、会員（対面 15 名、WEB 5 名）が出席し令和 3 年度の活動及び収支報告、令和 4 年度の活動方針、さらに各委員会別事業計画について報告された。

2. 報告事項

司会は福田副支部長、小川副支部長の開会宣言で始まり、以下の内容で報告された。

（1）支部長挨拶

平成 24 年に県支部として発足して 10 年が経過し、多くの会員の協力により活動が拡充され成果があげられている。昨年は、コロナ禍の影響もあり講演会、CPD 研修会、地域社会貢献活動としての理科教育、中小企業支援が十分に行えなかった。今年は、創設 10 周年記念誌を 10 月に発刊を予定しており、WEB を使った講演会や CPD 研修を WEB 併用した活動を行っていききたいとの挨拶であった。

（2）令和 3 年度事業報告について

各委員会の活動を小川副支部長が報告した。報告はコロナ禍で中止になった活動が多かったが、年次大会や役員会、CPD 講演などの WEB 配信、栃木産業振興センター協議会の参加、10 周年記念誌編纂委員会の設置、いちかい浮島プロジェクト、災害に関する土業連携研修会など新しい取り組みを行えた。

（3）令和 3 年度収支報告、令和 4 年度収支計画について

令和 3 年度収支報告、令和 4 年度収支計画について新井総務副委員長から報告があった。

（4）令和 4 年度活動方針

- ① 栃木県支部活動 10 年間の実績を踏まえ、“会員の顔が見える会”を旗印として、会員の拡大による支部の強化とともに、コロナ禍の下でも会員及び協賛団体のために、対面方式と WEB 会議方式を併用しながら、CPD 講座、見学会、研修会を充実させる。また、今年は 10 月を目途に記念誌を発刊する。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”となるよう市町等が抱える課題に対して社会貢献活動を展開する。特に、市貝プロジェクトでは政策提言を踏まえた活動やコロナ禍で中止した宇都宮市・帝京大学等での理科教育活動を再開することで、地域社会と架け橋になる事業を実践する。また、防災支援小委員会を中心として県内関係団体や関東甲信支部と防災支援に関する情報共有を目指す。
- ③ 中小企業を支援する業務の拡大を図る。そのために、金融機関や企業をサポートする関係

機関に、支部活動として技術士業務の案内や支援内容を紹介するとともに依頼された業務の質の向上に努める。

④ 中国浙江省科技交流和人材服務中心や浙江同濟科技職業学院とは、コロナ過で技術交流が中断したが、Web交流を開始するとともに、コロナウイルスの感染状況を見極めながら、訪問往来の再開を目指す。

⑤ 以上の方針に沿う支部活動は、Speedy(スピード感)、Strategic(戦略性)、Sensitive(感受性)、with Smile(笑顔)の4Sに心がける。

写真-1 年次大会の黒須支部長活動方針



(2) 令和元年度事業計画

総務委員会(小川委員長)、企画・研修委員会(宮下委員長)、広報委員会(西谷委員長)、企業支援委員会(萩原委員長)、国際委員会(亀田委員長)、環境支援・科学技術理科支援小委員会(西谷委員長)、防災支援小委員会(福田委員長)、地域支援小委員会(小川委員長)の各委員長から、それぞれの委員会活動について令和4年度実績と令和元年度計画の説明があった。

以上

令和4年度 栃木県支部 講演会報告

栃木県支部 幹事谷口 雅昭他

日時；令和4年6月11日(土)

15:00~16:10

場所；栃木県職員会館「ニューみくら」(宇都宮市)

主催；公益社団法人 日本技術士会栃木県支部

1. はじめに

令和4年度の栃木県支部の年次大会の記念講演会が2年ぶりに対面形式で開催された。その概要を報告する。出席者は来賓、WEB出席者も含め約40名であった。

2. 講演会について

1) 演題

栃木県の産業政策について

2) 講師

栃木県産業労働観光部、部長、辻真夫様

3) 内容

令和4年度栃木県の産業発展に向けた産業成長戦略、人材育成、グローバル展開、中小企業支援等の政策及び2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップについて講演いただいた。

モノづくりや本県の特産品であるイチゴを中心とした農作物といった1次産業、2次産業に主体とした政策についてのみならず、最近サービス産業発展についても政策に盛り込まれていました。建設部門の私をはじめサービス産業に係る企業人にも興味深く講演を拝聴することができたのでは

ないでしょうか。

また、後半、カーボンニュートラルを実現するための具体的なロードマップの説明がありました。温室効果ガス排出実質ゼロを目指す取組では、CO2 排出の実質 0 を 2050 年に達成するために、まずは 2030 年までに 2013 年度比率で 50% を削減する目標であるとの事。単純に人間の活動を半減すればいいのだが、我々技術士会もサービスの低下をしないでこの目標を達成するためには何をすべきか考えさせられました。

最後の質疑応答も、県の公用車の電動化や薪ストーブといった、カーボンニュートラルに関連する質疑が続き、受講者の関心の高さが伺えました。



写真－2 講師の辻真夫様



写真－3 講演の様子（会場）



写真－4 講演の様子



写真－5 質疑応答

以上

日時：令和4年6月11日（土）

16：30～18：30

場所：栃木県職員会館「ニューみくら」（宇都宮市）

主催：公益社団法人 日本技術士会栃木県支部

令和4年度栃木県支部年次大会記念講演会の後、会場を隣に移して、技術士1次試験合格者及び2次試験合格者の方々を招待しての祝賀会及び年次大会の懇親会が催されました。

大会の懇親会は新型コロナの影響で2年ぶりの開催で、感染対策として、隣との間隔をゆったりと取った和やかな雰囲気の中で進んで行きました。

会場の一隅には令和元年度、2年度、3年度の試験に見事合格された9名（下写真）の新技術士の面々が揃われました。お一人ずつ、自己紹介をしていただきましたが、新たに技術士補に合格された方もいらっしゃるれば、2分野目の2次試験に合格された方もおられ、この方々全員が本支部の一員として入会されれば、栃木県支部の発展も間違いないと確信する祝賀会となりました。



永田 圭佑（機械）



水野 潤（環境）



大庭健太郎（建設）



鉛 博瑛（機械）



山本義紀（環境）



鈴木鷹彦

（上下水道：一次）



佐々木 弘人

（上下水道：一次）



齋藤 仁志

（上下水道：一次）



益子 宏幸

（総監技術監理）

新会報のコンセプト

新型コロナウイルス感染の影響でイベントの中止や県支部主催講演会、見学会などの活動が低迷しており、しばらく休刊しておりました。本年度より、再開いたしたいと思っております。創立10周年を迎えたことから会報も活動報告を中心にしていた内容から、会員の投稿（参加型）による内容にモデルチェンジしていきます。

次回からは「特集」といった看板記事を設けるとともに、「若手技術者の育成への取組み」や「技術報告」などを会員所属の団体や企業及び協賛団体から投稿を頂きたいと思っております。

さらに、柔らかい記事として趣味や観光地の紹介、個人活動の報告など多様な記事をお待ちしております。

創立 10 周年記念講演会と記念誌

1) 創立 10 周年記念講演会の開催

開催日時：令和 4 年 10 月 15 日（土）時 間：13 時～17 時

会 場：ニューみくら 2 部屋

講演：

講師：

2) 創立 10 周年記念誌の発行

この程創立 10 周年の記念誌を発行するために県支部編纂委員会を立ち上げ、役員 14 名で準備を進めてきました。

これまでの活動内容をこの記念誌を見ればわかるような構成にいたしました。

記念誌は 10 月 15 日の記念講演会で配布する予定です。

【創立 10 周年記念の目次】

1 創設 10 周年記念誌発行にあたって（公益社団法人日本技術士会栃木県支部長）

2. 祝辞（栃木県知事、公益社団法人日本技術士会長）

第一部、栃木県支部 10 年間の歩み

1. 栃木県支部の活動と組織
2. 委員会活動
3. 主な栃木県支部活動報告（会報 1 号～16 号）
4. 月刊技術士
5. 新聞掲載記事

第二部、栃木県支部 10 年間の歩み

1. 10 年を振り返って
2. 県支部活動
3. 個人活動
4. 栃木県支部協賛団体紹介
5. 編集後記

【10 周年記念誌表紙の募集結果】

5 月に創立 10 周年記念誌表紙の写真を募集いたしました結果をお伝えします。数名からの素晴らしい写真の応募がありました。どれも栃木県内有数な自然、科学技術等の写真でした。ありがとうございました。

今回は創立 10 周年と言うこともあり、10 年間の活動と栃木県を代表する山の風景を表紙に採用しました。ご協力ありがとうございました。

まちぴあ勉強会（まちぴあとオフィス団体のコラボ企画）の募集

新型コロナウイルス感染によりまちぴあの利用者が減少していることから、新企画の「まちぴあ勉強会」が始まりました。7月20日には「タイを知ろう！学ぼう！楽しもう！」って勉強会が開催されました。内容は文字を書いたり、クイズで楽しんだり、タイ国の文化や習慣を学びタイ国を身近に感じる国際交流でした。秋頃は当会の順番が参ります。そこで、勉強会の講師を募集します。市民向けの、ワークショップ（10名程度、2時間）でなどできる勉強会です。是非市民の方にわかりやすい科学技術を伝えたい方はご応募ください。

募集締切：2022年9月15日

応募方法：E-mailで西谷まで（m-nishitani@aep-mizukankyou.jp）



広報委員長のよもや話

5月7～8日に那須大蛇尾溪谷「龍の国」キャンプ場に会社の20歳代の社員(自分の子供と同じ)とキャンプに行ってきました。大阪の吉本興業とコラボしているようで芸人さんが案内してくれました。20年ぶりぐらいのキャンプ！ダッチオーブンでローストビーフを調理、ベーコン、チーズ、うずら卵などをスモーク。あとはチューハイ、ハイボールなどを呑みながら一晩過ごしました。コロナ禍で何も出来なかった2年間でしたので楽しい時間を過ごせました。

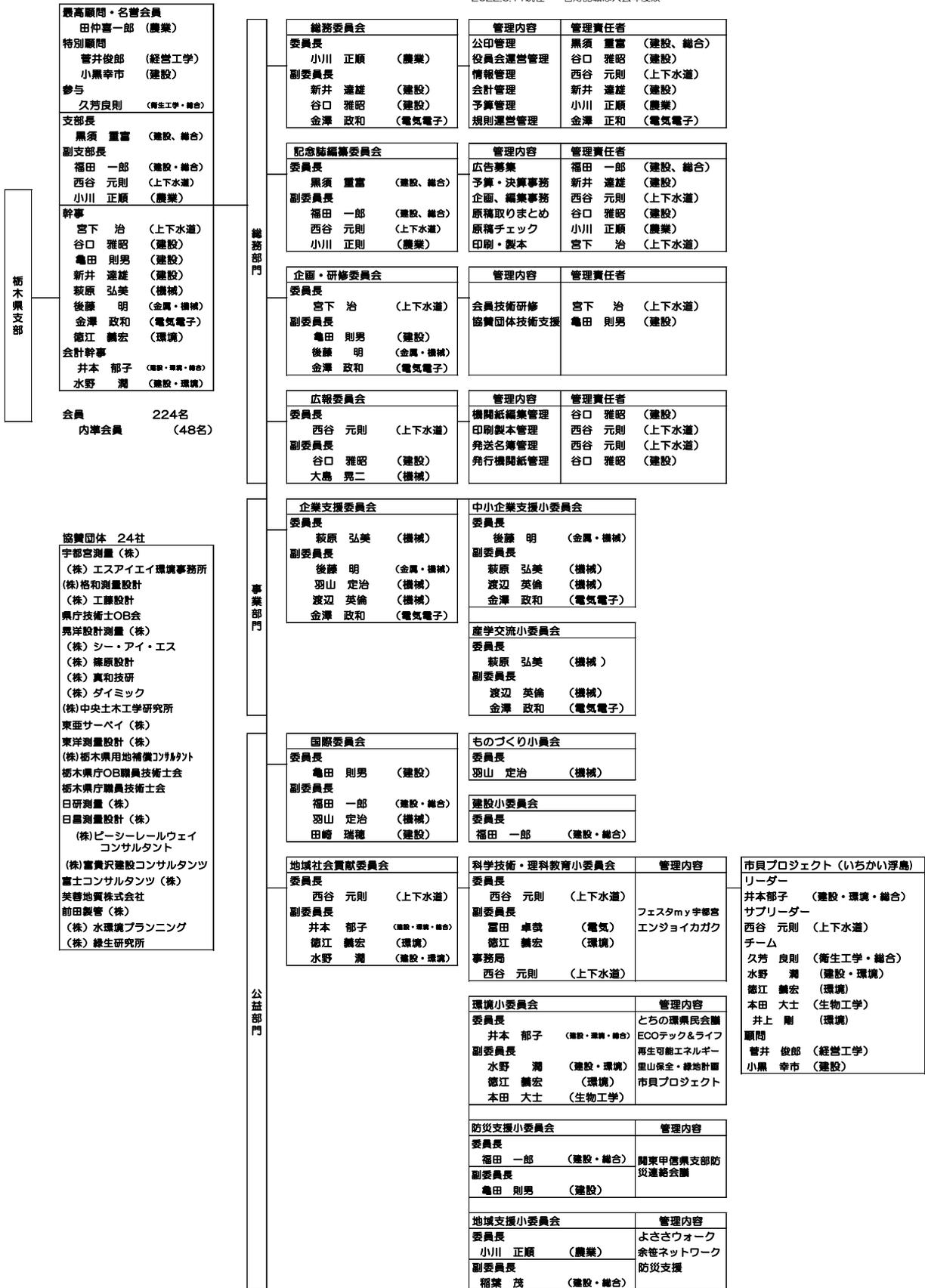
仕事以外で会社の仲間と楽しいことができとても充実した連休でした。

いろいろなイベントもあるようですので家族で足を運んで見ては如何でしょう！

令和4年度 栃木県支部新組織図

公益社団法人日本技術士会 栃木県支部 組織

2022.6.11現在 名簿記載は入会年度順



令和4年度 栃木県支部行事予定

月	日	曜日	総務委員会	記念誌編集委員会	企画・研修委員会	広報委員会	国際委員会	企業支援委員会	地域社会貢献委員会	市貝町プロジェクト
随時	-	-	月締め清算			ホームページ運営				
4月	9日	土	第1回役員会	第1回委員会						
	13日	水		構成会議						
	20日	水					県関係機関挨拶			
	22日	金						県工業振興課 企業支援打合せ		
	23日	土							環境支援 科学技術・理科教育 小委員会第1回	いちかい浮島PJ会議 第1回
	26日	火							第1回 KK理科支援連絡会	
5月	14日	土	第2回役員会	第2回委員会						
	21日	土				第1回 広報委員会				
	23~24日	月・火					杭州市建徳企業Web セミナー(浙江省)			
	25日	火								
	未定	-						企業支援活動 の名簿作成	理科教育 の名簿作成	
6月	11日	土	年次大会 (対面・WEB開催)		講演会 (対面・WEB)	●				
		土	第3回役員会		交流会及び合格者 祝賀会開催予定					
	17日	金					第1回国際委員会 第1回浙江省WEB 定期交流会			
	18日	土							環境支援 科学技術・理科教育 小委員会第2回	いちかい浮島PJ会議 第2回
	未定	-						第1回 企業支援委員会 第1回 アドバイザー選定	第1回 防災支援小委員会 第2回 KK理科支援連絡会	
7月	9日	土	第4回役員会	第3回委員会						
	17~18日	土・日	技術士二次試験							
8月	未定	-						第1回 アドバイザー派遣		
		-							第3回 KK理科支援連絡会	
9月	1日	木							関東甲信県支部 防災連絡会議	
	7日	水							第2回 防災支援小委員会	
	10日	土	第5回役員会			第2回 広報委員会				
	16日	金					第2回国際委員会 第2回浙江省WEB 定期交流会			
	未定	-			見学会(平日予定)	●			エンジョイカガク 2022	
10月	9日	日							まちびあ祭り	
	15日	土	創設10周年 記念式典 第6回役員会		創設10周年 記念講演会 (対面・WEB開催)	●			環境支援 科学技術・理科教育 小委員会第3回	いちかい浮島PJ会議 第3回
	未定	-					第51回 日韓技術士国際会 議	第2回 アドバイザー選定	第3回 KK理科支援連絡会	
11月	12日	土	第7回役員会		科学技術講演会 (対面式)	●				
	未定	-						第2回 アドバイザー派遣		
12月	17日	土	第8回役員会		講演会 (対面・WEB開催) 交流会(対面式)	●				
	16日	金					第3回国際委員会 第3回浙江省WEB 定期交流会			
	20日	月					17号原稿締切り			
	未定	-						第2回 企業支援委員会	ECOフカ&517 とちぎ2022	●
1月	20日	木					会報17号発行		第4回 KK理科支援連絡会	
	28日	土			CPD講演会 (対面・WEB開催)	●				
2月	12日	土	第9回役員会							
	22日	土			技術士を志す方 への提供講座	●				
	未定	-							第5回 KK理科支援連絡会	
3月	11日	土							関東甲信県支部 防災連絡会議	
	12日	土	第10回役員会							
	15日	水							第3回 防災支援小委員会	
	17日	金					第4回国際委員会 第4回浙江省WEB 定期交流会			
	未定	-							環境支援 科学技術・理科教育 小委員会第4回	いちかい浮島PJ会議 第4回

●はCPD対象

《活動報告》

令和3年度 1月講演会

支部幹事 金澤政和

1. 概要： 令和3年度講演会は、新型コロナウイルス感染症対策として当支部として初めての試みである「対面及びZOOMによるWEB配信をLiveで行うハイブリッド方式」で実施した。実施結果は予想以上に会場参加の人もリモートで参加した人もほぼ同一環境で受講でき質疑応答もスムーズに行えたので成功であったと感じました。講演は余笹川流域連携ネットワーク事務局長で当支部副支部長でもある福田一郎氏が講師で平成10年の那須水害を基にした「激甚な水害を受けた余笹川をフィールドとした地域貢献活動」と題して行われました。

2. 参加者： 対面参加 16名、WEB(ZOOM)参加 11名 計27名

3. 講演内容： 福田講師の自己紹介で始まり、平成10年の那須水害で未曾有の被害を受けた那須余笹川流域の状況と大規模な復旧事業について具体例を示しながら説明された。福田氏等は余笹川流域連携ネットワークを立ち上げ、自然環境保全や、川の日イベント行事を通じて地域貢献活動を行いながら水害への備えや啓蒙活動を行ってきた。その活動が認められ下野大賞等多くの賞を受賞していることは誇らしい事である。



講演する福田一郎氏

令和3年度_技術士を志す方への情報提供講座

支部幹事 宮下 治

本講習会は、土木学会関東支部栃木会、公益社団法人日本技術士会栃木県支部の共催です。

講習会の目的は、技術士を志す方に対して、直近で技術士（一次・二次）試験に合格された方からの受験体験談を発表して頂きます。また、今後の受験に向けて講師・技術士とのフリートーキングを行い、技術士について理解を深めて頂くための講習会です。開催は、令和4年2月22日（火）18時～20時、会場は栃木県総合文化センター第2会議室で行いました。参加者は、産業界、官庁から合計13名でした。

講師は、一次試験合格者の櫻井拓也氏（㈱富貴沢建設コンサルタンツ）、二次試験合格者の栗山徹也氏（栃木県宇都宮土木事務所）、総合技術監理部門合格者の益子宏幸氏（㈱水環境プランニング）の3名の方にご協力を頂きました。

櫻井さんの勉強方法等は、以下のとおりです。基礎科目及び専門科目は、過去問と解説が一冊になっている問題集を購入してそれをやりこみました。適性科目は、日本技術士会HPから過去問、過去問解説サイトから資料を作成して繰り返し学習しました。勉強時間は、就寝前30分から始めて、慣れてきたら2時間程度に伸ばし、平日はなるべく毎日行うように心がけました。休日は試験勉強を行わないで、リフレッシュにあてました。

栗山さんの勉強方法等は、以下のとおりです。まずは情報収集を行いました。実務経験が問われ

るので普段の通常業務を大事にすることが肝要です。実務経験証明書は、具体的に自分が何をしたか論理的に明確に表現することが重要です。これらの内容は、口頭試験で必ず聞かれます。筆記試験は、課題が複数出題され、自分が解答できる課題はどれかを少し時間をかけて選びました。選んだ課題に対して、所定の答案用紙は必ず埋めることです。解答が的確であっても答案用紙に空白が目立つ場合は合格できません。最後の行まで埋めることに心がけて下さい。書いて覚えましょう。

益子さんの勉強方法は、以下のとおりです。勉強は、短期集中が最善と考えます。休日は図書館で5～10時間、平日は自宅で1～2時間を5月連休明けから受験の7月中旬の2か月半続けました。過去問を解きながら用語内容等を身に付けた上で、筆記試験に備えて参考書の解答例をひたすら書き写すことで、書く練習と論理展開が吸収できました。口頭試験の対策は、技術的体験論文を5分程度、実務経歴を2分程度の説明原稿を準備しました。万全の体調で受験に臨めるように日常の健康管理に注意をしましょう。

講師のお話を聞いて、勉強方法には個人差があると感じました。本日の講習会を受けて、これから受験される方が自分にあった勉強方法を見つけられることを期待したいと思います。



(櫻井拓也氏)



(栗山徹也氏)



(益子宏幸氏)

栃木県支部テーマについて

『地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋に』

テーマのコンセプト

1つ：地域の人とは

栃木県内には「住む人達」や「働いている人達」、「学んでいる人達」があり、さらに「県内に係る人達」等多くの人達。

2つ：文化とは

地域の人達たちが作り上げあげてきた歴史が地域文化となり、現在の産業に繋がっている。これらの文化は観光資源と発展する。

3つ：技術とは

「文化を創り出した従来からの技術の継承」

「最先端技術の開発の取組み」

「情報化社会のスピードに対応した技術の導入」

「栃木県の地域環境を生かした技術の発信」 など多くの技術を示す。

三色カラーの意味

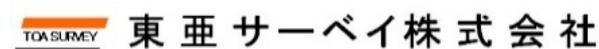
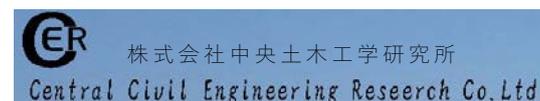
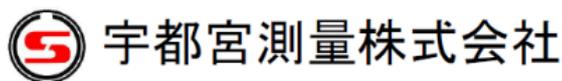
緑色：恵まれた森林をもつ多くの山々

水色：山から湧き出す、豊富な水

橙色：これまでの栃木の歴史や文化

公益社団法人日本技術士会 栃木県支部

協賛団体（五十音順）



— 栃木県職員退職者の熟練技術者 —
栃木県庁 OB 職員技術士会

栃木県県庁職員技術士会



編集後記

今回の会報は 2 年ぶりとなります。新型コロナウイルス感染症により県支部活動が全くできなくなり会報を休刊していましたが、第7波によりこれまで以上の感染者が各地で増えていますので皆様十分対策をして生活を送ってください。

今回の会報から参加型の会報にいたしました。是非投稿していただきたく思います。内容は一切問いません。技術的なこと、趣味、個人活動など楽しみにしています。

次回からは活躍する若手技術者の紹介を行いたいと思います。協賛団体に協力を頂き順番に紹介いたします。

では次回をお楽しみにしてください。

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部

会報 第 17 号 2022 年 8 月発行

発行者 栃木県支部（支部長 黒須 重富）

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 谷口雅昭、大島晃二

委員 大岩正通

事務局 〒321-0954

宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel：028-678-8600/Fax：028-678-8630